

SAMPLE

特集レポート No. 065

印刷業界の新規事業・生き残り戦略

Strictly Confidential



2017年 6月28日

はじめに

- 印刷業界は紙の電子化、環境対策意識の高まり、経済不況にともなうコスト削減圧力、印刷設備のデジタル化など“印刷”に求められる価値が減少し、縮小傾向にある。また、マーケット規模に対して印刷会社・印刷設備が過剰であることから旧来の設備型の印刷会社は業績不振に苦しんでいる
- 縮小する市場において、各社が生き残りを図るべく新規事業を展開している。また、流動する市場に乗じてベンチャー企業もそのプレゼンスを獲得してきている
- ここでは、参入する企業の新規事業や生き残り戦略について触れることで、レガシーな業界で起こる変化から生き残りの戦略を読み解く

本資料の流れ



- I. 印刷業界の現状
- II. 印刷業界の新規事業・生き残り戦略
 - 1. 中堅印刷事業者の生き残り戦略
 - 2. 勃興する印刷ベンチャーの動向

印刷業界の現状

■ 市場縮小と相まって印刷会社は厳しい状況が続いている

市場環境

- 旧来の(紙の)印刷市場は縮小傾向にある
 - 電子化の流れ(情報システム、電子書籍、・・・)
 - 環境対策による紙の削減
 - 経済悪化に伴うコスト削減圧力
 - 新規印刷方式による価格破壊
- 新技術を用いた印刷市場は拡大するも、既存の市場を破壊する諸刃の剣
 - ソフトサービス分野
 - デジタル印刷分野
 - 販促資材やマーケティング分野

競争環境

- 大手2社(凸版印刷、大日本印刷)の圧倒的寡占
- 中堅以下の企業は多数乱戦
 - 市場の急激な縮小に対し、印刷機械などの高固定費を抱える企業は軒並み苦戦している
 - 特定領域に特化した証券印刷・包装印刷ではその領域で高シェア企業が存在
 - 印刷業内での規模拡大や川上・川下企業による印刷業者の買収などが起きている
- ベンチャー企業も参入多数
 - インターネットを活用した印刷ビジネスモデルの勃興

大手2社の近年の動向

- 潤沢な資金と継続的な投資活動により新規領域を開拓しており、更に競争優位を拡大している

凸版印刷の近年の動き

既存印刷領域からの脱却



- 2016年09月 ■ 料理情報サイトクックパッドの株式を3%取得
- 2016年10月 ■ マイクロソフト、スカイアーチネットワークスと共同で、自治体向けのブロックチェーン技術を活用したサービス提供に向けて検証プロジェクトを発足
- 2016年11月 ■ 産業向け液晶パネル製造のGiantpuls Technology(台湾)を約140億円で買収、車載用パネルを開拓
 - ナノインプリント(超微細加工技術)のソリューション企業SCIVAXと資本提携
 - 画像解析センサーなどのIoT関連商品をベースに、農業法人に2億円を出資し農業分野へ参入
- 2017年1月 ■ 国立研究開発法人情報通信研究機構の委託研究として自治体向け音声翻訳システムの社会実験を実施
- 2017年2月 ■ インド食品包材会社であるMax Speciality Filmsへ34億円を出資しインドで拡大する食品包装へ展開

大日本印刷の近年の動き

既存印刷領域からの脱却



- 2010年11月 ■ 電子書籍領域においては、電子書店と実書店を融合させたハイブリッド型総合書店「honto」を展開
- 2016年10月 ■ 講談社、KADOKAWA、紀伊国屋書店の三社と提携し電子図書館を展開
- 2016年10月 ■ 東京医科歯科大学歯学部付属病院と「DNPお口健康ナビ」を開始し、DNPの情報解析基盤を活かした歯茎の健康警戒レベルを通知するサービスを展開
- 2017年1月 ■ ゆうちょ銀行のプリペイドカード「mijica」へ決済基盤を提供
- 2017年2月 ■ クレジットカードなどの決済情報を活用し、加盟店への送客を促すサービス「DNP CLO サービス」を開発
- 2017年3月 ■ 半導体領域で次世代の3次元構造NAND型フラッシュメモリの実現に向け、ナノインプリントリソグラフィ用テンプレートの複製装置を導入、供給開始

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

